

2016年 申年の幕開け

2016.1.9

～笑顔で新年を迎えました～

明けましておめでとうございます。

昨年は、定例の植物観察会、史跡公園主催の春・秋イベント（草木染め、花カ
ルタ遊び、弥生の森散策ツアー）への参画、“歩く会10周年記念”の京都旅行な
ど楽しい思い出が残りました。

今年には申年です。サルの大表格の孫悟空は自由でわがままですが、根は優しく
和を大切に旅を楽しんでいます。私たちの「歩く会」も植物や史跡観察を通して
自然や歴史遺産を守り、触れあうなかで感動や新しい発見があります。相互の親
睦を深めながら、健康で心豊かな楽しい人生の旅の一駒である「歩く会」にして
いきますよう。

世話人会代表 阿部 誠



むきぼんだ花だよ 1月

2016.1.9

史跡公園は、多くの人に利用してもらるように整備が進められてきましたが、
野生の森に人間の手がおよんでいくことでもあります。特に冬は枝葉がすすりすることから
整備の前後の違いが際立つ季節でもあります。昔の様子を知る人には懐かしいでもあります。

「色のなき疎林となりし寒さかな」

もと

もとの俳句には、弥生の森の鬱蒼としたよさが
なくなってしまうことの寂しさも感じられます。

妻木晩田に限らず冬は植物観察には寂しい季節ですが
歩く会では、そんな冬でも、

多くの植物は子孫繁栄を目的に
来たるべき暖かな季節により魅力的な花を咲かせるために、
その準備として芽を付けます。

芽は冬の厳しい寒さで枯れてしまっても
子孫繁栄に結びつきません。

そこで植物たちはいろんな方法で芽を保護することで、
厳しい冬を生き残っているのです。

硬い鱗片に覆われ、
寒さにも吹きにも耐えられる
芽鱗の構造
鱗片は葉が変形したものでらしい。

イヌシデ

クナノキ

アマガサ

コブシ

ヤマウルシ

鱗片ではなく毛皮の鱗片をまとったものの中には、
産毛程度の目立たないものもあるらしいが、
コブシは長く豪勢な毛皮の鱗片に覆われている。

ナナカマドも芽全体を
少ない片で覆っており、
芽鱗らしくありませんが、
葉脈のない片に覆われているかが
見分けのポイントです。

目立つ花の少ない冬の史跡公園ですが、
妻木山に向かう散策道の道沿いには
真っ赤なツバキが咲いています。
自生ではなく、植樹されたツバキですが、
冬の公園の紅一点的存在です。
そんなツバキを調べて見ましょう。

ヤマウルシは鱗片を持たない裸芽です。
小さく細こまり、
短い毛で寒さに耐える体勢をとっています。

椿

花の少ないこの時期、椿の花は目を惹きます。ツバキは、わが国の冬を代表する花として、古代から親しまれてきました。妻木晩田遺跡では、妻木山地区の入口に2mほど、ヤブツバキが自生しています。これは植栽されたものですが、周辺の山には自生のヤブツバキがあるもので、妻木晩田遺跡でもみつかるかもしれません。予備知識として、今後の活動に活かしてください。

日本では、北海道を除く地域に椿が分布しており冬になると花を見ることが出来ます。

椿は冬を耐え忍ぶため 耐冬花(たいとうか)という名もついています

椿は、日本国内だけでも1000種類はあるそうですが自生種はヤブツバキとユキツバキ。その他の多くは江戸時代以降、品種改良によって造られたものと考えられています。



●大城冠



●赤玉椿



●黒椿

山茶花の特徴は、花びらが一枚一枚落ち、椿は花弁が散ることなく花ごとトットと落ちるため、見分け方も簡単です。私たちが多く見かける椿は、ツバキ科ツバキ属のヤブツバキ(雑種)という種類で多くは、このヤブツバキから変異したものと考えられています。

●椿の花言葉

- ・完全な愛
- ・女性らしさ
- ・優雅
- ・控えめな優しさ



●紅乙女



●春山茶花



●谷の灯



●鼓椿



●乙女椿



●白羽衣

この植物は何でしょう？

閑散とした冬山に一際目立つ赤い色、ヤマボウシの実に似ていますが???

それはサネカズラでした。

サネカズラの実をよく目にしますが、結実を落とした後の花床を見るのは初めてのことに、ヤマボウシの実と見間違えるのは私だけでしょうか？



集合果の花床

サネカズラの不思議

実は集合果で花床と結実で形成され、花床は結実と共に膨らみ、結実の中には

1~3個の種があり、その形は勾玉に似ている。「なぜ、この形なのか？」

不思議ですね…



結実と花床
集合果



結実の種 (勾玉に似る)